

【新設診療科紹介】

耳鼻咽喉科

文=今村 明秀 (助教)

科長=(教授) 原田 博文
助教=市川 大輔、今村 明秀



沿革 耳鼻咽喉科は平成19年4月1日に開設された、福岡歯科大学医科歯科総合病院で最も新しい診療科です。科長は福岡大学医学部耳鼻咽喉科学教室から原田博文が就任致しました。その他、助教が2人在籍し、計3人で診療に当たっています。

診療内容 耳鼻咽喉科の一般診療を行っており、午前、午後とも担当医師が新患・再来の診療を行っています。

当科は首から上で、脳や眼、骨などを除いた頭頸部という幅広い領域の疾患を対象としています。その幅広い領域の中でも、科長の専門分野である耳科・鼻科疾患を中心に対応しています。

耳科の領域では、初発症状としては聞こえが悪くなる難聴や耳鳴りのことが多いため、ま

ず、顕微鏡や内視鏡を用いた鼓膜の詳細な観察からはじまり、耳のレントゲン、聴力検査などを行い、診断・治療に当たっています。また、回復がなかなか困難な難聴では、精密検査(CT検査やこばの聞き取りの検査など)を行って、手術療法や補聴器の適合などを施行し、聞こえの改善に努めています。8月には、鼓室形成術という、非常にレベルの高い手術を行った実績があります。

鼻科の領域では、アレルギー性鼻炎、嗅覚障害、慢性副鼻腔炎、外傷などの疾患に対して診療に当たっています。花粉やダニなどの抗原を調べる免疫学的検査、嗅覚検査、CT検査などを行い、薬物療法や手術療法を行い疾患の根治・改善を図っています。

その他、咽喉頭領域や頸部の領域にも力を入れて診療に当たっております。

今後の展望 当科の診療の大きな柱の一つとして、聞こえ、バランス、あじ、におい(当科的には聴覚・平衡感覚・嗅覚・味覚)についての診療があります。最近、高齢化社会の進展に伴い、聞こえやバランス、あじ、においなどの障害を訴える高齢者も増えてきています。このような感覚の障害は日常生活の質の低下を来たします。そのため、感覚障害に対する診断・治療が必要となってきます。しかし、現状では、神経自体の障害による感覚

障害には有効な治療法がほとんどなく、また、高齢者においては検査の結果の判断に困ることや検査自体が行えないことも少なくありません。今後、高齢者の聴覚・平衡感覚・嗅覚・味覚障害に対する新たな治療法や検査法の確立が重要となってきます。現在、我々は高齢者の客観的な聞こえの評価と補聴器の装用の検討を行っています。今後、他の感覚についても種々の検討を行い、高齢者に対する、聞こえ、バランス、あじ、におい診療の更なる充実を図って参ります。

最後に、当科は福岡歯科大医科歯科総合病院の一助となるよう、耳鼻咽喉科一般の診療にも当たって参りますので、一層の御支援をお願いします。



口腔顔面美容医療センター

文=長島 義之 (講師)

センター長=(教授) 松浦 正朗
講師=長島 義之
助教=片山 知子
非常勤=小坂 正明、衛藤 明子(形成外科)



沿革 口腔顔面美容医療センターは平成19年4月に開設されました。以前から顔面外傷などで連携をとっていた福岡大学病院形成外科から医師2人を迎え、医科と歯科が総合的に診療を行う全国的にも例のないセンターとなっています。これは口腔医学の確立を目指す福岡歯科大学の新しい試みとしても注目されています。現在歯科分野は3階の総合診療室の中で、形成外科は1階口腔顔面美容医療センターにて診療を行っていますが、常に情報交換を行い積極的な連携を図っています。さらに口腔外科、矯正科など関連各科とも緊密な連

携のもと診療を行っています。

診療内容 顔全体の美容を考える時、歯科医だけでは診療の対象を下顔面のみとせざるを得ませんが、形成外科医と連携することで顔全体を対象とすることが可能となりました。口腔内の審美的な補綴治療やホワイトニングに加えて、顔のしみやほくろとり、アンチエイジング、更なる美容形成まで行うことができ、機能を含めた総合的な顔面の美容医療を行っています。まだ開設して間がなく、歯科はインプラントを含めた審美的補綴診療を、形成外科は脱毛を主訴とした患者さんが多いのが現状ですが、顔全体のトータルケアを希望する方も少しずつ増えてきています。

今後の展望 一般にホワイトニングやラミネートベニヤへの関心が高まる中で、大学病院として審美歯科を取り入れているところはまだまだ少ないのが現状です。さらに美容医療の中には科学的な根拠の乏しいものも少なくありません。新しい分野だけに学生教育を含め学問的な体系を構築していくこと、科学的根拠を示すこと、専門家を育

成していくことが今後必要です。医科と歯科ではお互いの知識が不足していることは否めません。美容医療が本当に患者さんのメリットとなるためには、各専門医がそれぞれの立場からトータルな知識を身につけていくことで治療オプションを増やし、より専門的な高度な医療を提供することが不可欠です。

また一般開業医の先生方からの美容に対する関心も少しずつ高まってきています。専門的な治療が必要であれば、地域医療の中で積極的に病診連携に努めていきます。

高齢社会を迎えるにあたって、健康で充実した生活を送るアクティブなお年寄りが増加し、健康長寿に貢献することができるよう努力していきたいと思っております。

